

平成 20 年度 博士後期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

共分散構造分析を用いた統合失調症患者におけるリスクの認知を規定する因子の検討

学位の種類: 博士 (作業療法学)

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学系
学修番号 06996602

氏名: 小野 弘

(指導教員名: 里村 恵子)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

【問題と目的】ヒトが事象の判断においてリスクの側面をどのように認知するかは、コミュニケーションにおいて非合理的な意思決定をもたらさないために考慮が求められることがらである。これまでリスクの認知について得られた知見は健常者を対象とするものであった。本研究では統合失調症患者を対象にして、リスクの認知を規定する因子について共分散構造分析を用いて検討することが目的とされた。

【対象】統合失調症患者が対象の母集団とされた。標本集団は精神科病院に入院中で作業療法に参加している平均年齢 51. 53 歳の 181 人の統合失調症患者であった。

【調査方法】調査にはリスクに関する 24 項目の日常生活事象の評定を SD 法によって求める桶見の調査票が用いられた。標本抽出法は、研究の協力が得られた病院で調査協力に応募した統合失調症患者からデータが収集される有意抽出であった。

【分析方法】分析は第 1 に因子分析によってリスクの認知に関する因子が抽出され、第 2 に検証的因子分析によって各因子を構成する上で妥当な変数が検証され、第 3 に多重指標モデル分析によって因子間の因果構造が検証された。

【結果】因子分析では、「競争に関する因子」、「金銭に関する因子」、「運に関する因子」、「人生に関する因子」の 4 因子が抽出された。検証的因子分析では、競争に関する因子は 7 変数、金銭に関する因子は 3 変数、運に関する因子は 3 変数、人生に関する因子は 2 変数が妥当性を示した。共分散構造分析では、統合失調症患者においては、人生に関する因子は、金銭に関する因子と運に関する因子の 2 つの因子に規定されており、競争に関する因子は規定因子として機能していないとのモデルが妥当性をもち最適であった。

【考察】金銭に関する因子は制御可能なもの、運に関する因子は制御不能なもの、競争に関する因子は制御可能性において中間的なもの、人生に関する因子はリスクの認知にそれぞれ対応し、統合失調症患者におけるリスクの認知が、健常者のように 3 因子ではなく、2 因子によって規定されているとの示唆が得られたのは、彼らにおいては制御可能と制御不能とを秤量することで得られる中間的な評定としての認知因子が、定性的な自己同一性を保つものとして形成されることが不全になっているためであることが考えられる。中間的な認知をもたらす秤量は **working memory** の機能であり、統合失調症患者ではこの機能に障害が見られ、またこの機能を担う脳領域がリスクの認知と関連するとの知見が得られていることは本研究で得られた示唆と整合するものと考えられる。